



「心と体の冒険！プロジェクトアドベンチャー ～よりよい人間関係をつくるために～」

わんパーク大館（県立大館少年自然の家） 研修員 宮野 英法

1 はじめに

今年度、秋田県立大館少年自然の家（わんパーク大館）に長期社会体験研修員として勤めた。そこでの様々な活動の中で、特に注目したのが「プロジェクトアドベンチャー」という活動プログラムである。注目した理由は、この活動プログラムが学校現場でも「よりよい人間関係」を作り上げるのに有効な活動であると実感したからである。

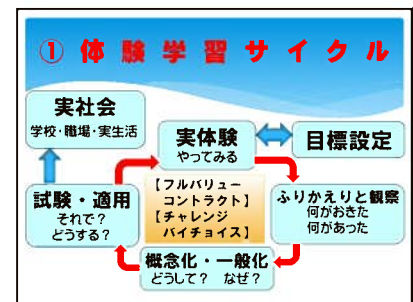
2 プロジェクトアドベンチャー（PA）について

(1) PAプログラムの3つの原則

PAプログラムには、以下の3原則がある。3原則が相互に作用することで、個人や集団を成長させていく。

① 体験学習サイクル

子どもたち自らが体験を振り返ることにより、そこでの気づきや学びを次の体験や実生活に生かしていくための手立て。



② フルバリューコントラクト

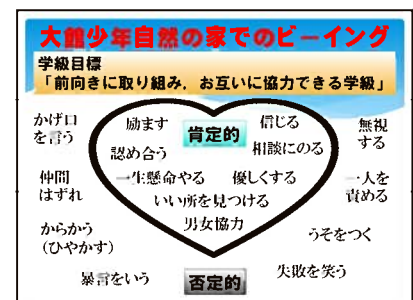
「自分を含めて、グループの誰をも軽んじたり、けなしたりしない」という、一人一人が安心してPA活動に臨むための約束。活動前には、「参加する」「一生懸命取り組む」「体も心も安全に」「常に公平・公正に」「楽しく活動する」という言葉で伝えている。

③ チャレンジ バイ チョイス

その日の体調や、自分の様々なレベルを考慮して、参加の仕方やチャレンジレベルなどを自分で決めることができるというもの。雰囲気流されて自分の限界を超えた挑戦をしないための安全装置の役割も果たしている。

(2) ビーイング ～自分たちで作る自分たちの規範～

フルバリューコントラクトを具体的に自分たちの言葉で視覚化したものである。PA活動では、目標を達成するために必要なことや自分ができること、活動の邪魔になることを書き出していく。学校現場では、「居心地のよいクラスにするために」という観点や「行事や活動を成功させるために」という観点で作成することもできる。活動しながら学習体験サイクルを回すことでビーイングは進化し、子どもたちの中にしみ込んでいく。



(3) わんパーク大館でのPAの進め方

① PAの説明

②交流ゲーム ⇒ チャレンジしやすい環境にするためには「心の壁を下げる」必要がある。そこで緊張をほぐすための楽しいアクティビティ（活動・ゲームの意）を行う。

③ローエレメント ⇒ 体験器具を使い、メンバー同士がコミュニケーションを取り合い、身体を支え合いながら課題解決活動を行う。活動中に学習体験サイクルを回しながら、ビーイングの作成も行う。

④活動全体の振り返り

3 プロジェクトアドベンチャーを体験しての感想

(1) 子どもたちの感想から

- ・みんなで同じ目標に向かって取り組むことができた。
- ・自分たちで決めた約束を守ることで、安心して、協力しながら活動できた。
- ・自分の考えをみんなに伝えたら「いい考えだね!」と認めてもらい嬉しかった。
- ・最初は動きがバラバラだったけど、リーダーとなって指示をしてくれる人が現れ、みんなをまとめてくれて良かった。
- ・自分や友だちが困っていた時に、お互いに助け合いながら活動することができた。



(2) 先生方の感想から

- ・子どもたちが活動している姿を、第三者的な立場で見ることにより、学級の様子をよく知ることができた。
- ・自分から声をかけたり、友たちをリードしたり、学校では見られなかった積極的な一面を活動の中で見る事ができた。
- ・子どもたち自身の力で仲間と協力して、課題を解決しようと努力する姿を活動を通して見る事ができた。

4 終わりに

様々な学校のPA活動の様子や感想から、以下のような可能性を見つけることができた。

- ・複数の小学校から入学する中学校や、学級編成によって新しい学級や仲間になった時に、楽しみながら新しい仲間と打ち解けるきっかけを作ることが期待できる。
- ・子どもたちがPAで得た価値は、ビーイングに表される。それはPAの時にだけ有効なのではなく、意識して使っていくことで、いつでも、どこでも、よりよい人間関係を作るための効果が期待できる。
- ・学習体験サイクルを継続的に使っていくことにより、自分たちで考え、自力解決するために頑張っていこうとする前向きな姿が期待できる。
- ・子どもたちや先生方にとって、一人一人の新しい一面を発見することにつながる。

PA活動は、短時間であっても確実に集団に変化をもたらしている。「百聞は一見にしかず」である。わんパーク大館のPAを学級作りに活用してみたいだろうか。PA活動は、あくまでもきっかけである。活動後の継続方法についてはわんパーク大館に相談してほしい。